

## ワークショップ【A班】 報告

**日 時：**平成22年2月9日（火） 午後7時30分～午後9時

**場 所：**市民会館24号室

参加者：藤原委員、増井委員、西山（和）委員（発表者）、日野委員（代理：西山氏）司会、佐藤次長、河田主査

●テーマ：どんな取り組みをしたらよいか・協議会での取り組み

内 容：協議会として次年度以降にどんな取り組みが出来るか（長期・短期）

### ア 森作り

- ・整備するポイントの選定
- ・環境が持続できるスポットの絞込み
- ・残す木を選択して、花粉症対策の森をつくる
- ・計画区域の環境保全、維持管理の継続（放置される場合が多い）
- ・側溝等の清掃
- ・荒れた雑木を整備する
- ・環境を良くする取り組みを行なう

### イ 間伐材の利用

- ・ツリーハウス
- ・木工製品で土産づくりをする
- ・手作りのベンチを作る

### ウ 道（コース作り）

- ・モデルコースを作る（山の中を歩く）
- ・鬼伝説ルートづくり
- ・癒しの道ルートづくり
- ・自然に親しむ登山ルートをつくる。
- ・登山者のレベルに合わせたコースづくり
- ・林道を使ったハイキングコースを作る。
- ・山歩きマップの作成（トイレの位置等を知りたい）
- ・携帯電話が繋がる、または繋がらない場所が分かるマップを作る
- ・伝説の地を訪ねるコースづくり
- ・ゴミ箱を設置

### エ イベント

- ・チェーンソーを使ったアート大会
- ・間伐の体験
- ・きのこ狩りツアー（ナラ枯れにより木にナメコヤクリタケが生えている）
- ・山菜を食すイベント
- ・竹林の再生（たけのこ狩り）

- ・エコ生活体験（電気なし、水道なしの中で生活してみる）
- ・写真コンテスト
- ・地元の木（杉・檜）の流通を追うイベント
- ・探鳥会の実施
- ・雨の対応（長靴ハイキング）
- ・①木の伐出 ②木材市場 ③地元の木で作った家を見る

#### オ PR・観光

- ・山の特派員（写真情報の提供・受け皿の充実）
- ・おいしい店の紹介
- ・特産品の紹介
- ・星の見える森（観光スポットにする）
- ・大江山の木に咲く花や実をピックアップして紹介
- ・見どころの紹介などをホームページを利用してPRする
- ・山に入る時の注意事項（服装など）分かりやすくまとめる

#### カ 人材育成・教育

- ・ツアーの実施
- ・ガイドの養成
- ・山に入る時のルールをまとめる
- ・山的生活・道具の再発見

## ワークショップ【B班】 報告

参加者：仕名野委員、岩佐委員、田倉委員（代理：宮本氏）藤田（ゆ）委員  
西山（円）委員（発表者）、

●テーマ：どんな取り組みをしたらよいか・協議会での取り組み

内 容：協議会として次年度以降にどんな取り組みが出来るか（長期・短期）

#### ア 植林

ヒュウガミズキを鉾山跡地などに植林しよう

#### イ 森づくり

もともと自生していたレンゲツツジを植えるのもよい 自生していた植物を植える  
毛原の活動を周辺自治会でさえ知らない もっとPRを 自分の集落でも植樹したい  
間伐すると明るい森になる  
ケヤキだけでなくトチなど幅広いものを植えていく必要がある

#### ウ 文化の伝承

グリーンロッジの体験実習館が空いているので、そこで昔の耕作道具などを展示し、また、体験実習などをして文化を伝承していく

エ 人材育成

人材育成ガイド発足 人づくりにお金をかける

福知山市の自然科学館には多くの子どもが訪れている そのような子どもたちを山に引っ張りたい。そして後継者にしていきたい

オ 拠点整備

活動拠点を作るべき

大江町のことがわかる写真展示などができる場所を作ってほしい

大江山草木誌を作成した 膨大な植物の標本があるが保管場所がない

カ 方針を出す

共通理念を出す コンセプトをどういう方向でいきたいか

全体的にリンクしていない

森づくりで何からやったらよいかかわからない

協議会のメンバーが点で動くのではなく線で結んでいく必要がある

キ 情報発信

インターネットは若い人に情報発信するにはもってこい メール転送などもできる

森づくりの事業情報を発信する

マスコミ活用

記事を書いて発信していく

インターネットを見ない世代もあるので郵便物も必要

ホームページ作成。情報発信

ク 登山ルートを決めていく

セラピーロードの設置

ケ 次年度活動

フィールドワーク

協議会委員の専門分野を持ち寄ってひとつにしていく

各団体が連携していく

登山ルートを決めたり、昔のルートを発掘する

## ワークショップ【C班】 報告

参加者：赤松委員（司会役）、正木委員、戸澤委員、小西委員、梅原委員（発表者）浦野委員、小西主任

第2回ワークショップでは、前回の協議内容を踏まえて、まず、人々が山へ入りやすい仕組みと、その財源づくりという視点で協議し、最後にまとめとして、具体的な提案をするということで話し合いを始めた。

時間の関係で、最後のまとめとしての具体的な提案までの検討が出来なかった。

●テーマ：どんな取り組みをしたらよいか・協議会での取り組み

内 容：協議会として次年度以降にどんな取り組みが出来るか（長期・短期）

※どうすれば人々が山に入りやすくなるか。

ア 理想的な森のイメージづくり

※現物の調査を前提として

- ・自然林（広葉樹）の育成
- ・自然林の保護
- ・四季の山の風景（魅力を活かす）

イ 具体的なイベントづくり

- ・山採の活用
- ・山荘料理の開発
- ・マイツリーの販売（広葉樹などの実のなる樹）

（定期的に樹の持ち主に報告、地元の人を持ち主の代わりに手入れをする、定期的なイベントの開催、宿泊施設等の検討が必要。）

- ・地元の理解が必要

ウ そのための環境整備

・山の中にマダラ状に花や実の群生を作り、そのポイントを散策路で繋ぐ。これを利用するイベントを。イベントの創造

- ・親子で遊びながら森林保全活動が出来るフィールドを造る

（四季折々のイベントを盛り込む。）

- ・自然の恵みを活かした食べ物、遊具作り
- ・自然林の整備（中低木の整理）
- ・登山道の整備
- ・旧山越道の復活
- ・山の谷の利用（複合農業）

エ PRと具体的な提案

・大江山の鬼伝説、三岳山の山岳信仰の勉強会（講演）で、まず、地元のことを知る。それにより、ガイド等の育成に役立てる

- ・地元住民の理解を深める
- ・退職された方に健康のために山いじりの場所を提供する
- ・山を元気にしようキャンペーン（実のなる樹を植える。ごみ掃除をする。）

（各学校や、多くの方の協力が必要）

- ・歴史的遺産の活用、宣伝
- ・広報宣伝活動の活発化
  - ・効果的な広報、PR
- ・MAP作成（伝説ポイント、野生の植物、山の食べ物など）
- ・教材（体験できるもの）の制作（3，4年生が福知山市について学習）

（昭和小3年生が大江町を散策した。）（冊子（私たちの福知山）教材はある。）

- ・山を知ってもらうためのキャラクターづくり（キャラクター募集のためにお金が必要）

内 容：行政のお金を当てにせず、自分たちで活動するための資金源として考えられるものは

なんだろう。

ア 木材の利用

- ・間伐材の利用（売却）
- ・金になる良質材の育成

イ 山の幸の利用

- ・山菜パック便
- ・山でとれる山菜の販売
- ・山菜料理
- ・食事の提供
- ・鬼ナベ
- ・鬼カレー
- ・「木」や「植物」の販売
- ・おいしい水の販売
- ・金になる木の植樹（例：しきび）
- ・特色のある地産品を使ったものを販売
- ・特産品開発として、山の実を利用する 間伐材の利用（実用的なもの）

ウ 加工物の利用

- ・寄せ木パッチワーク

エ イベント関連の利用

- ・イベント広告協賛金
- ・ツアーイベント参加料
- ・イベント参加料
- ・森づくり基金を市民から集める（例：キラキラ募金）
- ・キャラクターのグッズ販売（ある程度の人気が必要）
- ・各団体やサークルボランティアによる協力（無料）

※その他として「鬼そば」とはなにを指すのかという話があった。「鬼そば」とはこういうそばのことだというものがあれば良いかという意見がありました。